

2008年度 就職概況

昨年のアメリカ発サブプライム問題を発端に、わが国でも経済環境の悪化、雇用不安が騒がれており、ここにきて企業の採用人数は減少傾向にあります。しかしながら本学についていえば、昨年6月上旬までには約8割、11月までにほとんどの学生が企業より内定を受けており、秋以降の景気後退による就職難の影響はほとんどありませんでした。なかには、採用内定取り消しの相談もありましたが、本学のように、1学年4,000人の卒業生を擁する大きな総合大学では、避けられないことですので、取り消しがあった場合は、大学として必要に応じて企業や学生、保護者の間に入って支援しています。

本学ではこの危機的状況を受けて、キャリアセンターが今後の就職・キャリアサポートについて、迅速な対応をしています。例年7月末に実施している、約900社の企業を招いての学長招待会については、2009

年は6月2日に実施し、ひと月ばかり早いタイミングで、各企業に日頃お世話になっているお礼と今年度の採用のお願いをする予定です。

また今年も、年5回のガイダンスのほか特別ガイダンスを実施し、就職情報誌の担当者を招いて、新3年生を対象に、現在の雇用情勢の中での企業の選び方についての講演会をします。本学の学生は一般的に就職活動に対する意識が高く、ガイダンス参加人数は、同規模他大学と比較しても2割ほど多く、昨年5月のガイダンスには、約3,800人の学生が集まりました。

今後も大学としては、景気の良し悪しに関わらず、1年生から始まるキャリア教育を重視し、“就職活動の前倒し”として急かされるように学生をサポートするのではなく、職業観、勤労観を養成し、基本をしっかりと持った学生を育てよう努めます。

キャリアセンター 就職支援 体制

キャリアセンターでは、主に4つの支援サービスを強化しています。

■ 1 業界研究会を個別・業界合同・異業種合同で実施

昨年10月から12月にかけて、各業界のリーディングカンパニーを中心に約60社を招き、業界研究会として説明会を開催。2008年度は新たな取り組みとして、業界合同や異業種を組み合わせた様々な角度からアプローチをする研究会を実施しました。企業にとっては学生との接点を持たせたことになり、学生にとっては業界の「生」の声を聞いたことで業界研究の手がかりをつかむことができました。

■ 2 企業セミナーを個別・合同の二種類で実施

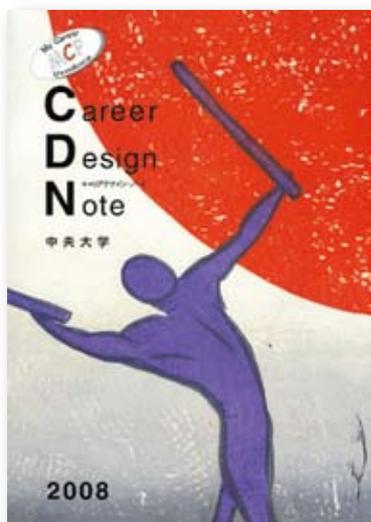
多摩キャンパスでは昨年1月から2月下旬にかけて、延べ16日間で約740社の個別および合同企業説明会を開催。参加学生

数は延べ17,000名でした。理工キャンパスでも同様のセミナーを開催し、参加企業数は約190社、参加者は延べ5,400名。学内に企業を招聘することで時間をかけて多くの企業研究ができるなど、学生からは高い評価を得ています。

■ 3 就職面接セミナー・個別面談の充実

多摩キャンパスでは、企業の人事経験者を講師に招き、主に面接対策を中心に、履歴書の書き方、エントリーシート、志望動機の関連についてのセミナーを、学外において合宿形式で開催しました。

就職活動の早期化に伴い、学生は3年生の秋から就職や進路に関する面談を求めてきており、年間を通してみると約5,500件を超える相談がありました。専任職員が主に面談をおこなっていますが、就職が内定している4年生、院生(理工学部のみ)に学生アドバイザーを依頼し、エントリーシー



キャリアデザイン・ノート